

平成 20 年度環境技術実証事業検討会ヒートアイランド対策技術分野
(オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術)
I T 機器等グリーン化技術小WG (第 3 回) 議事要旨

1. 日時：平成 21 年 2 月 9 日 (月) 13:00~15:00
2. 場所：鉄鋼会館 811 号室
3. 議題
 - (1) 第 2 回小 WG 議事概要
 - (2) 実証試験要領 (案) について
 - (3) 今後の検討スケジュールについて
4. 出席検討員：市川晴久 (座長)、植田隆、上笠健、朽網道徳、佐々木言、村田俊之、森川泰成、太田完治
欠席検討員：高原明彦、松野泰也
5. 配布資料
 - 資料 1 第 2 回小 WG 議事概要
 - 資料 2 実証試験要領 (案)
 - 資料 3 今後の検討スケジュール (予定)
6. 議事

会議は公開で行われた。

 - (1) 第 2 回小 WG 議事概要について
 - ・ 事務局より資料 1、2 に基づき、前回の議事の概要について説明がされた。
 - (2) 実証試験要領 (案) について
 - 全体構成及び 1 章
 - ・ データセンターの定義として、建築物のみではなく、サービスセンターとしての総称ではないか。同様にサーバールームも単なる部屋ではなく、計算機を指す表現とすべき。
 - ・ シンククライアントは、サーバーと端末を一緒に評価するべきである。シンククライアントはソリューションであるので、ソリューションをどう評価するかは今後の課題になる。シンククライアントサービスという名称の方が良いのではないか。
 - ・ 記憶機構は HDD のことを指していると思うが、厳密には同じ記憶機構であるメモリーが搭載されているので、誤解を与えないように HDD と書いてはどうか。

○ 2 章（実証試験の概要）

- ・ サーバーに負荷をかけるツール、測定するツールそれぞれが存在し、まとめて測定するツールはないと思われるので、その点をはっきり表現したほうが良い。

○ 3 章、4 章

- ・ 電力計で電力を測る場合、時間の扱い、実際の運用を踏まえた重視すべき負荷率の検討が必要である。与える負荷のバリエーションが決まれば自動的に測定間隔も決まる。
- ・ 科学計算、映像処理と通常のワープロ処理では CPU の稼働率に違いがある。その違いが見えてこないヒートアイランド対策の改善にはつながらない。
- ・ 測定条件については、検討が必要である。
- ・ 申請する場合、負荷も申請者側で立案できるようにしてはどうか。例えば、アイドル時の負荷に対応した技術があれば、それに対応した測定方法、測定間隔等を申請者が提案できるようにするのがいいのではないか。
- ・ 負荷の申請者が申請できるということは、ユーザーから見て、比較可能となるように、何か測定ツールに対して規定を設けることも必要ではないか。
- ・ 1 日の負荷変動パターンが設定できるかは今後検討していく。

○ 6 章

- ・ 審査の結果、採択されなかった技術については公開しない。ツールの詳細までは公開する必要はなく、再現性が確保できていることを実証機関が確認すればよい。

○ 7 章、8 章

- ・ 室温によって測定結果は大きく変わる。室温は非常に重要なファクターである。測定条件として、温度も入れるようにしてはどうか。夏は 28°C が励行されているので、28°C という条件にしてみると良い。
- ・ 部品単位を実証する場合、部品を製品に組み込んで試験すると部品の効果が埋没してしまうことに留意する必要がある。
- ・ 指定ツールの承認について、どうであれば承認されるのかというコンセプトを書いておいた方が良い。細かく規定するのではなく、何をもとに承認するのかの理念を示しておくことが必要である。
- ・ 比較対象製品と実証対象製品に適用する測定ツールが異なる場合も許容されるべきである。但し、その場合、両者の換算について明記させる必要がある。

以上